



各 位

NPO放送批評懇談会

発表!! 第2弾 第61回ギャラクシー賞

マイベストTV賞グランプリ

平素は放送批評懇談会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

テレビ、ラジオ、CMの作品、制作者、関係者に贈る賞として61年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」。

2023年度「マイベストTV賞グランプリ」を発表いたします。

貴誌／紙、貴メディアでのご紹介をお願いいたします。

贈賞式は、5月31日（金）に開催予定です。

贈賞式は放送批評懇談会 YouTube 公式チャンネルでライブ配信を行います。

第61回ギャラクシー賞贈賞式 YouTube ライブ配信

日時：5月31日（金）午後3時～5時20分（15:00-17:20）

司会：鬼頭里枝 森谷佳奈

放送批評懇談会 YouTube 公式チャンネル

<https://www.youtube.com/HOUKONchannel>



※上記 YouTube 公式チャンネルでは、ギャラクシー賞受賞ドキュメンタリー作品の再生リストを掲載中です。



視聴者参加型のギャラクシー賞

テレビ マイベストTV賞グランプリ

マイベストTV賞 第18回グランプリ

金曜ドラマ「不適切にもほどがある！」

TBS テレビ TBS スパークル

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。第18回のグランプリに輝いたのは、TBS テレビの金曜ドラマ「不適切にもほどがある！」。昭和と令和の両方の登場人物が、タイムスリップによって自らの時代の価値観を見つめ直していくさまを、自由さと寛容さのメッセージを込め、宮藤官九郎が娯楽色豊かに描いた連続ドラマ。投票では「現代のドラマから失われてしまった“自由な面白さ”がふんだんに盛り込まれていた」「笑いと涙のなかに、寛容な社会であってほしいというメッセージが込められていた」「全世代が思っても言えなかったことを、地上波を使ってぶちまけてしまう脚本家・宮藤官九郎さんの力は絶大」など視聴者の称賛の声が数多く寄せられ、幅広い層から圧倒的な支持を集めました。

解説

マイベストTV賞に参加した「オンライン会員Gメンバー」は、2024年4月23日現在で1046名。これに放送批評懇談会の正会員208名が加わり投票にあたった。

年間のグランプリは、2023年4月度から2024年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作36本と、2024年4月に実施した「ネット配信ドラマ」の特別投票の上位3本を合わせた計39本の中から、最大5本までを投票するという方法で決められた。

グランプリに選ばれたのは、TBS テレビの金曜ドラマ「不適切にもほどがある！」。“令和を生きる私にとっては、昭和から来た小川先生の言葉がスカッとする”“クドカンさんの脚本が光り、若い世代も還暦を過ぎた世代も楽しめた”といったコメントが寄せられ、幅広い年代から支持を集めた。

第2位はTBS テレビの日曜劇場「VIVANT」。“ハラハラドキドキ！スケールが大きくて理屈抜きで面白かった”“映画や外資系の配信作品ではなく、地上波で見られたことで、月曜日に学校や職場で感想を共有できる楽しさがあった”など、映画のようなスケールの大きさに高い評価が集まった。

第3位はテレビ朝日の土曜ナイトドラマ「月読くんの禁断お夜食」。“萩原利久さん・浅香航大さん兄弟の醸し出す雰囲気はどこか怪しげで美しかった”“月読くんが作るお夜食がどれも本当に美味しそう”など、俳優の演技と料理を称えるコメントが多く寄せられた。

今年度のグランプリ投票も、視聴者の熱い思いが詰まったテレビ番組が上位を占める結果となった。一方で、「ネット配信ドラマ」もトップ10には及ばなかったが予想を上回る票を集めて、視聴形態の広がりを感じさせた。

来年度も同様の方式によって、年間のグランプリを決定する予定。



最終投票結果

第 1 位	金曜ドラマ「不適切にもほどがある！」(TBS テレビ)	474 票
第 2 位	日曜劇場「VIVANT」(TBS テレビ)	271 票
第 3 位	土曜ナイトドラマ「月読くんの禁断お夜食」(テレビ朝日)	257 票
第 4 位	婚活 1000 本ノック (フジテレビ)	233 票
第 5 位	木曜ドラマ「めぐる未来」(読売テレビ)	208 票
第 6 位	ドラマ NEXT「みなと商事コインランドリー2」(テレビ東京)	203 票
第 7 位	ファミリーヒストリー「草刈正雄～初めて知る米兵の父 97 歳伯母が語る真実とは～」(NHK)	159 票
第 8 位	連続テレビ小説「ブギウギ」(NHK)	153 票
第 9 位	土ドラ「おっさんのパンツがなんだったっていいじゃないか！」(東海テレビ)	138 票
第 10 位	金曜ナイトドラマ「おっさんずラブリターンズ」(テレビ朝日)	134 票

参考

★どんな賞？

「ギャラクシー賞マイベスト TV 賞」は、放送批評懇談会が NPO (特定非営利活動法人) になったことを節目として創設されました。

視聴者はどんな番組を評価し、どんな番組を愛好しているのでしょうか。放送局や放送の作り手には、視聴者の声は届きにくいのが現実でした。とくに、「よかった」「素晴らしかった」といった推奨の声はなかなか形になって表れません。視聴者の評価の声を形にしたい、視聴者の気持ちを放送局や制作者に届けたい——そんな思いから生まれたのが、「ギャラクシー賞マイベスト TV 賞」です。

★賞の本数、対象年度、賞の仕組み

ギャラクシー賞マイベスト TV 賞グランプリ 1 本

年度 (4 月～翌年 3 月) に日本国内で放送されたテレビ番組が対象

特別投票「ネット配信ドラマ」にノミネートされた 3 本も対象 (2022 年度より)

選出者は放送批評懇談会正会員とオンライン会員 G メンバー。選出は放送批評懇談会の会員サイトの投票で行う。毎月の候補番組は放送批評懇談会で制定。会員は毎月 1 回、候補番組の中から 5 本まで選んで投票。得票の多かった 3 本が月間ノミネート番組に選出される (投票の経過・結果は Web サイトで発表)。1 年間に選出された月間ノミネート番組から、年間のベスト番組 5 本を選んで投票。もっとも多くの支持を獲得した番組 1 本が、<ギャラクシー賞マイベスト TV 賞グランプリ>に選出される。

★オンライン会員 G メンバーとは？

「放送批評懇談会 オンライン会員 G メンバー」は、放送批評懇談会の活動に参加する「準会員制度」として、2016 年 5 月にスタートした。会費は年額 1,000 円。

G メンバーは「ギャラクシー賞マイベスト TV 賞」選出に参加し、番組への意見や感想を、テレビ・ラジオの制作者に発信する。月刊誌「GALAC」の簡易電子版を購読できるほか、放送批評懇談会が主催するセミナーなどに特別料金で参加できる特典なども用意されている。

志賀信夫賞

関口 宏

フロンティア賞

NDキュボケット

日本テレビ放送網

マイベストTV賞 第18回グランプリ

金曜ドラマ「不適切にもほどがある！」

TBSテレビ TBSスパークル

テレビ部門

連続ドラマW「フェンス」

WOWOW NHKエンタープライズ

テレビ静岡55周年記念「イーちゃんの白い杖 特別編」

テレビ静岡

でくのぼう～戦争とPTSD～

山形放送

僕と時々もう1人の僕～トゥレット症と生きる

CBCテレビ

ザ・ドキュメント「引き裂かれる家族 検証・揺さぶられっ子症候群」

関西テレビ放送

ETV特集「“玉碎”の島を生きて(2)～サイパン島 語られなかった真実～」

日本放送協会 NHKエンタープライズ グループ現代

NHKスペシャル「“冤罪”の深層～警視庁公安部で何が～」

日本放送協会

幾月夜纏ひて 羽後町・西馬音内の盆踊

秋田放送

ナンデモ特命係発見らくちゃく!～28歳の小卒女性SP! 完全版～

福岡放送

NNNDキュメント'24「釜ヶ崎の肖像 明日への3000枚」

読売テレビ放送

ながさき原爆記録全集 山端庸介原爆全写真 被爆翌日117枚全解析

長崎ケーブルメディア

SBCスペシャル「78年目の和解～サンダカン死の行進・遺族の軌跡～」

信越放送

NHKスペシャル 未解決事件 File.10「下山事件」第1部 第2部

日本放送協会

映像'24「労組と弾圧～関西生コン事件を考える～」

毎日放送

特別賞

金曜ドラマ「不適切にもほどがある！」

TBSテレビ TBSスパークル

個人賞

神木隆之介

連続テレビ小説「らんまん」(NHK)の演技

報道活動部門

コウセイラジオ～break through the wall～

エフエムとよた 中日新聞社 ひまわりネットワーク

トゥレット症に関する一連の報道活動

CBCテレビ

香川県の「ゲーム条例」を巡る検証報道

瀬戸内海放送

キャンペーン「かわるPTA」

東海テレビ放送

「NHKアナウンサーの命を守る呼びかけ」に関する一連の取り組み

日本放送協会

文化放送ロービジョンプロジェクト

文化放送

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨9本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、5月31日(金)開催「第61回ギャラクシー賞贈賞式」で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMIは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社(者)名五十音順に記載。●詳しい結果は6月6日(木)発売の「GALAC」2024年7月号に記載いたしますので、ご覧ください。

ラジオ部門

SBSラジオギャラリー「方言アクセントエンターテインメント～なまってるのは、東京の方かしんねーんだかな～」

静岡放送

霜降り明星のオールナイトニッポン

ニッポン放送

空想労働シリーズ サラリーマン

RKB毎日放送

朝はあけたり～決死の密航 奄美日本復帰を伝えた男たち～

南日本放送

RKKラジオ報道特別番組「真実を求めて～免田事件が問い続けるもの～」

熊本放送

文化放送年末スペシャル 小松左京クロニクル「日本沈没を探す旅」

文化放送

FBCラジオスペシャル「輝く!ゴールデンエイジふくい～生きる喜び歌にのせて～」

福井放送

TOKYO FM 小澤征爾追悼番組「セイジ、フォーエバー」

エフエム東京

DJパーソナリティ賞

オードリー

「オードリーのオールナイトニッポン」(ニッポン放送)パーソナリティとして

CM部門

テレビCM

大塚製薬 カロリーメイト「光も影も」

大塚製薬 博報堂 catch ENOAD AOI Pro.

CBCテレビ 公共キャンペーン・スポット「人生100年時代を考える」～きぬさんは“看護師”一筋80年

CBCテレビ

相鉄ホールディングス 相鉄・東急直通線開業記念 相鉄東急直通線記念ムービー「父と娘の風景」

相鉄ホールディングス good design company SIX 博報堂 博報堂ケトル スプーン

東京ガス 企業「母の推し活」

東京ガス 電通 電通クリエイティブX KEY pro

日本マクドナルド 夜マック シリーズ「オードリーのオールナイトマック」

日本マクドナルド TBWA HAKUHODO ロボット

ユー・エス・ジェイ ユニバーサルスタジオジャパン シリーズ「引越し篇」「初恋篇」「二度とない日々篇」

ユー・エス・ジェイ 電通 TYO

ラジオCM

エフエム東京 企業「ラジオの夜」

エフエム東京 ランダムハウス

大日本除虫菊 金鳥の渦巻、キンチョール、虫コナーズプレミアム、蚊がいなくなるスプレー、細キンチョール、蚊対策 マスクをはずしてシリーズ「1」「2」「3」「4」「5」「6」

大日本除虫菊 電通 (Creative KANSAI) ヒッツコーポレーション

ウェブCM

ABJ STOP海賊版「ありがとう君の漫画愛」

ABJ 博報堂 博報堂プロダクツ

サントリーホールディングス ザ・プレミアム・モルツ シリーズ「飲み誘うのムズすぎ問題篇」

サントリーホールディングス 電通 マテリアル 電通クリエイティブX Think & Craft

東海旅客鉄道 東海道新幹線「すべての会いたい人へ」

東海旅客鉄道 電通 JR東海エージェンシー SUPER MARKET

日本マクドナルド マックフライポテト「ティロリミックス」YOASOBI「群青」xVaundy「花占い」

日本マクドナルド 電通 ギークビクチュアス

ヤマハ 企業「だれでも第九」

ヤマハ 電通東日本 EPOCH 電通イベントオペレーションズ Candee 電通クリエイティブX マテリアル リーフビジョン アイエムエス ベンタゴン



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、放送草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は年度単位。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。ギャラクシー賞は第50回（2013年）を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会が開催され、月間賞が選出されている。他部門も定例会を持ち番組・作品を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年2回（上期・下期）、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年5月下旬～6月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。



◆賞の内容◆

- 【テレビ部門】大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1
- 【ラジオ部門】大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1
- 【CM部門】大賞1、優秀賞3、選奨9
- 【報道活動部門】大賞1、優秀賞2、選奨3
- 【その他】志賀信夫賞1、フロンティア賞1、マイベストTV賞グランプリ1
(上記のほか、周年には記念賞を設ける場合がある。)

<志賀信夫賞>

放送批評懇談会の発展に寄与した放送評論家・志賀信夫の功績をたたえるために、2009年度(第47回)創設。広く放送界の発展、放送文化の向上に貢献した人物等を表彰する。放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する。

<フロンティア賞>

放送界の未来を切り拓く挑戦を果たした番組、仕組み等を顕彰する。2015年度(第53回)創設。

<マイベストTV賞>

視聴者の参加により選ばれるテレビ番組賞で、2006年度(第44回)創設。放送批評懇談会選奨事業委員会が候補番組を選定し、これを毎月、放送批評懇談会正会員と「Gメンバー」(視聴者によって構成される放送批評懇談会のオンライン会員)が投票して選出される。年間で最も得票を得たものが「マイベストTV賞グランプリ」として表彰される。

◆沿革◆

- 1963年度(表彰は1964年)ギャラクシー賞誕生、第1回。
- 1976年度 第14回 大賞を導入。月間賞を新設。
- 1989年度 第27回、ラジオ部門独立。
- 1993年度 第31回、ラジオ部門に「DJパーソナリティ賞」新設。
- 1995年度 第33回、CM部門設立。
- 2002年度 第40回、報道活動部門設立。
- 2006年度 第44回、視聴者が選考に参加する「マイベストTV賞」を新設。
- 2009年度 第47回、「志賀信夫賞」を新設。
- 2015年度 第53回、テレビ部門にテレビの新しいチャレンジを応援する「フロンティア賞」を新設。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC(ぎやらく)」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行っています。

●過去の実賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース(<https://www.houkon.jp/galaxy-database/>)」をご活用ください(掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など)。

以上